

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	愛の家グループホーム札幌星置 (2F ルピナス)	評価実施年月日	H19年10月1日
評価実施構成員氏名	高橋 淳、本庄美佳、本村剣一、遠藤美香、山森光子 小島ひろみ、齊藤あさみ、橋本千恵、天内敏子		
記録者氏名	富田 千秋	記録年月日	H19年10月1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
<input type="checkbox"/>	1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
<input type="checkbox"/>	2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
<input type="checkbox"/>	3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	○	面会時など、折りに触れてくり返しお伝えする。ホームだよりを利用して毎月ホームの取り組みをお知らせする。
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>		
<input type="checkbox"/>	5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
<input type="checkbox"/>	6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	○	ご家族に運営推進会議の意義や役割を理解して頂けるように繰り返し働きかける。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	○	まずは身近なところでの権利擁護を会議などで学び、ご家族にもわかりやすく情報提供する。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p> <p>ご本人に希望や意見、不満など聞く機会を作ったり、意思を伝えるににくい方の日々の生活から意向を探っている。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p> <p>面会時に話をしたり、電話で状況を伝えている。金銭については毎月、領収書や出納帳の写しを送って確認していただいている。</p>	○	より詳しい情報を伝える為、ホームだよりを充実させる。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p> <p>苦情受付窓口をお知らせしたり、意見、要望、苦情受付箱を用意している。又、手紙にして伝えたり、家族参加の行事で話をしている。</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p> <p>リーダー会議やユニット会議にて意見を求める機会を設けており、朝礼などで提案を促し、話し合っている。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p> <p>行事などに合わせたシフト作りやユニット間での協力体制が取れるシフト作りを行っている。管理者も状況に応じた対応ができる体制である。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p> <p>ユニットの職員は固定しているが、新入社員や異動があった時は引継ぎ時間をできるだけとり、馴染みの職員がうまく仲介できるようにしている。</p>		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人研修、リーダー研修、ケアマネ研修などの社内研修の他、グループホーム協議会や地区の連絡会において学ぶ機会があり、ホーム内で報告している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム協議会に加入し、会議に参加したり地区連絡会に参加して情報交換や地域のネットワークづくりに努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	入居者から離れた休憩時間を取れるよう配慮しており、悩みなど聞く体制や本部にメンタルケアをサポートするシステムがある。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員の資格取得に向けた支援体制があり、各種研修に参加している。職員が向上心を持てるよう職能評価を取り入れ公平な評価が受けられる機会がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前に見学に来ていただいたり訪問して面談し、困っていることや希望、現在の生活の様子など伺っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	電話や見学の際、話を伺いできるだけ詳しい状況を聞いて家族が求めていることを理解するよう努めている。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在の様子を伺いながら、必要なサービスを見極めるよう努めており、状況によっては他のサービスの情報を提供している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人にも見学に来ていただき、ホームの様子を見ていただくことで馴染みやすいように努めている。	○	ホームで過ごしていただく日帰り体験のような取り組みを行う。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご本人の話や経験を伺い、家事や買い物、行事などで得意分野に力を発揮していただき、支えあう関係作りに努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ホームでの生活の様子や気づいたこと、職員の思いを伝え、ご本人を支えるための関係づくりに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	行事に参加していただいたり、相談するなど、又、面会の少ないご家族には電話で伝えるなど、関係づくりの支援をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	誕生会に招いたり、ご家族、知人から手紙や贈り物が届いた時など折に触れご本人や職員から電話や手紙を出している。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者の情報を共有しながら、個性を把握し気の合った方同士で過ごせる時間を作ったり、職員が間を取り持つなど関係作りに努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された後も、相談や支援に応じることができることを伝え、情報提供などを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人から希望を伺ったり、生活の様子から意向を探ったり、意思の伝えにくい方にはご家族から情報を得ている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族から話を伺ったり、日常の会話の中から情報をキャッチしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの一日の流れや身体面、精神面の状況を把握し、変化のあった時の情報共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	その方らしく、より良い生活ができるようアセスメント、モニタリング、カンファレンスを職員全員で行い、ご本人、ご家族の意向を反映できるよう努めている。		

	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		

	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p> <p>本人や家族の希望で、これまでのかかりつけ医で医療が受けられる他、ホームの協力医療機関や必要に応じた専門外来の受診など適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p> <p>協力医療機関に相談したり、情報を得て支援に結びつけている。</p>	○	もの忘れ外来のある病院との連携を検討している。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p> <p>看護師がいて入居者の健康状態を管理している。往診に来ているクリニックと24時間連絡が取れる体制になっている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p> <p>当ホームになってから入院したケースはないが、早期退院に向けた支援など体制を備えている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p> <p>「重度化した場合の対応に係る指針」を設け、ご本人やご家族に理解していただけるよう努め、できるサービスについて検討している。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p> <p>ご本人やご家族の意向に沿って、協力医療機関と連携を取りながらできること、できないことを見極め、支援に取り組んでいる。</p>		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	情報提供表や介護記録などを提供することによって、これまでの生活の様子や支援、注意事項などがわかるように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	介護記録や排泄表などは目にふれないよう配慮しているが、声かけは時として他者にも聞こえてしまうことがある。	○	周りの様子に応じて、さり気ない声かけを徹底する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自分で決めたり希望を出せる場面(食事や飲みもの、レクリエーション、入浴など)作りを行い、気持ちや体調に合わせた支援をしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	おおよその食事の時間が決まっている程度で一人ひとりのその日の体調や気分、希望などに合わせて支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	日常や外出の衣類をご自分で選んでいただいたり、その方の好みなどを考慮して職員が選んでいる。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を大切なものと位置づけ、希望の食材や献立を取り入れたり、月に1度の外食や出前をし、同じ食事を職員も一緒に楽しみながら食べている。又、調理、後片付けも協力しながら行っている。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲酒や喫煙をされる方はいないが、その方のお好きなものを把握しており、一緒に買いに行ったり、楽しめるよう支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	全員がトイレを使っている。トイレの場所をわかりやすくしたり、その方の排泄パターンやサインをキャッチしてトイレ誘導するなど、一人ひとりに合わせた排泄支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	仲よし同士一緒に入浴したり、入りたい日、入りたい時間に入れるよう、又、入浴を好まない方にはご家族や医師、職員でチームアプローチをするなど、その方に合わせた支援をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	その方の睡眠パターンや体調に合わせて日中に休息を取っていただいている。又、入眠しやすい時間に合わせたり、ホットミルク、足浴などの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	できる事、得意な事を行っていただいて役割作りをし、感謝の気持ちをお伝えすると共に、図書館で本を借りたりドライブなどの外出や外食などに希望を取入れ楽しみや気分転換の支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	多額のお金はホームで管理しているが、必要に応じてご自分でお金を持っていただいたり、買い物支払いなどしていただいている。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	季節を感じてもらい、ストレス解消や刺激を得られるように出来るだけホームの外に出かけられるよう散歩、ドライブ、買い物などの機会を設けて支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご本人の希望を聞きながら個別外出の支援を行ったり、外出や外食など、ご家族も一緒に出かけられるようにお誘いしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご希望時はいつでも電話をかけていただいております。ご家族にお願いして協力を得ている。又、手紙のやり取りも随時支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時は飲み物などを用意し、居室にてゆっくりと気兼ねなく過ごせるように配慮し、いつでも訪問していただけるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止の要綱をユニットに置き、どのようなことが身体拘束となり、精神的、身体的影響はどのようなものかなど日頃のケアから認識するよう努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関やユニットの扉に鍵はかけていず、自由に出入りできる。1、2階職員、事務職員とも連携しさり気ない見守りや声掛け、付き添いを行っている。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	記録などは皆様の様子がわかりやすいポジションで行い、夜間は定期的な巡回を含めて所在を確認できるよう配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ご本人の状況に合わせて持っていたりたりホームで管理したりしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	誤薬を防ぐ為の薬の取り扱いを統一して徹底したり、火災防止の自主点検を行っている。事故報告書やヒヤリハットを書くことによって情報の共有を図り、防止に努めている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時対応のマニュアルを整備し周知を図っている。又、救急救命の講習をホームで行い、体得できるよう努めている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力により、避難訓練で職員の役割や避難経路の確認を行い、消火器の使用方法を身につけられるよう努めている。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	安全を優先するご家族がベット柵の使用を望まれたケースもあるが、抑制の弊害やホームの取り組みを説明して理解を得られるよう支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

	<p style="text-align: center;">取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)</p>	<p style="text-align: center;">○印 (取組んでい きたい項目)</p>	<p style="text-align: center;">取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)</p>
<p>73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎朝バイタルチェックを行うと共に、日頃から顔色や食事の様子などに気を配り、いち早く変化や異常がキャッチできるように努めており、記録や申し送りで情報共有を図っている。</p>		
<p>74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方箋で薬の目的や用法、副作用などを確認し、服薬支援のマニュアルで誤薬防止に努めている。薬の変更時は口頭や文章での申し送りを行い、症状の変化の確認を行っている。</p>		
<p>75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>認知症に及ぼす影響などの知識を共有し、繊維質の多い食材や牛乳、オリゴ糖を取り入れたり、体操や散歩など体を動かす機会を作っている。 下剤等の使用は医師に相談し、状態に合わせた量と頻度となっている。</p>		
<p>76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、その方の力に応じた声掛け、見守り、介助を行い、口腔内の清潔が保てるように支援し、定期的に義歯洗浄を行っている。</p>		
<p>77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養バランスやカロリーを考慮した献立を基本に、好みや習慣を取り入れその方に応じた形態を取っている。 食事量、水分量が把握できるように記録し、その時の状況に合わせた支援を行っている。</p>		
<p>78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症予防の為に掃除の取り決めを行ったり、うがい、手洗いを行うように働きかけている。又、衛生講習など学習の機会を設け、予防、対策に努めている。</p>		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食器や布巾、まな板などを漂白して清潔に扱っている。食材は2～3日分を買い、それに合わせた冷蔵庫整理や掃除を行い、食材が古くならず無駄なく使えるよう工夫している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関の階段には手すりがあり、スロープもあるので車椅子の方でも安全に利用できる。ホーム前に花壇や鉢植えがあり、親しみやすい雰囲気作りに努めている。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご自分が住んでいる所として居心地よく過ごせるような、落ち着いた雰囲気作りや季節を感じて頂けるような装飾を皆さんと一緒に考えたり、作ったりしている。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>一人ひとりが思い思いに過ごせる空間がある。皆さんと一緒に過ごす中でも観葉植物や家具などで視界を部分的に切り取ることができる工夫をし、一緒に居ながらもリラックスができるよう支援している。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>持ち物が少ない方もいらっしゃるが、使い慣れた家具や馴染みの道具や品物などを持ち込んでいただき、住み慣れた部屋に近い環境にしたりご本人やご家族の意向をお聞きしながら部屋作りを行っている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>毎日の掃除に合わせて窓を開けて換気したり、空気清浄機やコーヒー豆を利用してにおいがこもらないよう工夫している。季節に合わせた冷暖房でこまめな調節を行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

	<p style="text-align: center;">取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</p>	<p style="text-align: center;">○印 (取組んで きたい項目)</p>	<p style="text-align: center;">取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)</p>
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>入居者の状態に合わせて廊下や浴室、トイレなどに手すりを設置したり、見直しができるよう安全確保に努めている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの出来る力、わかること、わからないことの情報共有をし、不安や混乱、失敗のないようお手伝いし、環境整備に努めている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の前が車の往来の多い道路だったりベランダなどのスペースはないが、駐車場を利用してバーベキューや天気の良い日のティータイム、小さいながらも畑作りをして野菜作りを楽しめるよう工夫している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ○ ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ○ ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・当ホームになって半年が過ぎましたが、ご入居者一人ひとりの思いを大切に生活支援を第一に考えています。
- ・ご家族と離れてしまってもご家族あつてのご本人であることを強く感じており、できるだけホームにお越し頂けるように行事への参加を働きかけるなど、良好な関係作りを心がけています。
- ・スタッフであるという自覚を持ちながら、ご入居の皆さんとお互いに「おかげさま」という自然体でいられると良いと考えています。
- ・栄養のバランスとカロリーを考えた食事を召し上がっていただいています。